



- (1) ねらい いろいろな2次方程式を、因数分解の考え・平方根の考え・解の公式を使った解き方のうち、どの解き方を使えば効率よく解けるかを考える活動を通して、式の形に着目して判断することの大切さに気づき、問題によって解き方を選択し、選んだ理由を説明することができる。
- (2) 評価規準 問題の式の形によって解く方法を選択し、選んだ根拠を説明している。(思考・判断・表現)
- (3) 学習展開 (7/11)

過程	学習活動	教師の指導・援助 (留意点)
導入	<b>1 確認問題から本時の学習につなぐ。</b> 次の2次方程式を解きなさい。 $x^2 + 4x - 1 = 0$ $x^2 + 2x - 3 = 0$	<b>【ICT活用の工夫】</b> ・確認問題を配付し、一人一人の前時の定着状況の把握をする。
	<b>2 問題を提示し課題を設定する。</b> 次の2次方程式を解きなさい。 ① $(x - 5)^2 - 24 = 0$ ② $x^2 + 3x - 10 = 0$ ③ $3x^2 + 4x - 1 = 0$ 2次方程式を手際よく解くには、何に着目すればよいのだろうか。	<b>【ICT活用の工夫】</b> ・確認問題の解き方を示し、「どんな2次方程式でも解の公式で解けばよいか」と問うことで、解き方の使い分けの必要性を確認し、スムーズな課題化を促す。
展開	<b>3 課題を解決する。(個人追究→班交流)</b> <b>【個人追究】</b>  <b>【班】</b> 	<b>【ICT活用の工夫】</b> ・理解度に応じたヒントカードを配付する。 ・自力で計算することが難しい生徒には、3種類の解き方を見て、簡単にできる解き方を選択できるようにする。 ・計算はできるが根拠がはっきりしない生徒には、ヒントカードに式の形に注目できるような記述を示す。
	<b>4 式の形と解き方の関係について意見交流する。</b> ① $(x - \bigcirc)^2 = \square$ の形がすぐに作れるとき → 平方根の考え ② $ax^2 + bx + c = 0$ の形にしたとき ・左辺が因数分解できるとき → 因数分解の考え ・左辺が因数分解できないとき → 解の公式 ③平方根でも、因数分解でも難しそうなとき	<b>【ICT活用の工夫】</b> ・各自で考えた後、班ごとに使い分けの仕方を交流し、「どのように判断していくとよいか」について、まとめることを促すことで、より考えを深められるようにする。
終末	<b>5 まとめたことを他の場合を通して確認する。</b> ・フラッシュカード形式で方程式を出し、どの解き方が手際よく解けるか、どうしてそう判断したかを問う。	・練習問題に取り組む際は、まず問題について、どの解き方で解くか選択し、理由を書くように促す。
	<b>6 練習問題に取り組む。</b> ① $2x^2 - x - 15 = 0$ ② $(y - 3)^2 - 25 = 0$ ③ $x^2 + 6x + 9 = 16$	<b>【ICT活用の工夫】</b> ・解き方を使い分けることのよさを実感するために、タブレットに問題と答えを送り、個人のペースで取り組めるよう促す。
	<b>7 振り返りを記入する。</b> ・本時の自己の学習を振り返り、タブレットを使って記入する。	

**【検証：期待される学習効果】**

- ・大型スクリーンに示すことで、本時の学習の方向性を共通理解することができる。
  - ・大型スクリーンに問題を映し出し、解き方の見直しを確認することで、個人追究の場面でも同じように進めたらよいと、安心しながら学習を進めることができる。
  - ・自分のペースや自分の理解度に応じて進めることができる。終末での利用については、先に答えを配付することで、自分のタイミングで答え合わせをしたり、解き方を確認したりすることができる。
- ※各々のペースで取り組むからこそ、定着の弱い生徒に重点を置いて支援していくことが可能となる。